

2017  
Vol.52 No.2

# 交通工学

Traffic Engineering

特集

地域のモビリティ確保

<http://www.jste.or.jp/>



JSTE

発行—交通工学研究会

ISSN 0454-4595

# 研究室紹介

## 福岡大学工学部社会デザイン工学科 交通・都市システム研究室

### 1. はじめに

福岡大学は80年を超える歴史と伝統を有し、9学部31学科、大学院10研究科34専攻を擁する西日本屈指の私立総合大学です。1964年には土木工学科(2003年社会デザイン工学科に改称)が創設され、学科では5,000人を超える卒業生を輩出してきました。そして、2010年に辰巳浩が福岡大学に着任したことで「交通・都市システム研究室」が誕生しました。

現在は、辰巳浩(教授)、堤香代子(助教)に加えて吉城秀治(助教)が2014年から着任し、3名体制で研究室を運営しています。2016年度は修士3名、学部4年生14名の計17名の学生が在籍し、一丸となって研究に取り組んでいます。

### 2. 研究内容の紹介

研究室名のとおり、交通計画や都市計画に関する研究に実践的に取り組んでいます。以下では研究室で進めている主なテーマについてご紹介します。

#### 2.1 子育てしやすいまちづくりに関する研究

人口減少社会に突入した我が国において、少子化対策は喫緊の課題となっています。そこで研究室では、子連れのお出かけに着目した研究を多角的に進めています。お出かけの実態を把握するためにPT調査データを活用し、子どもを持つ女性の交通行動特性について研究しています。他にも、電車やバス等利用時に

ける子連れや周囲の人々の意識に関する研究や、中心市街地での子連れ家族の回遊の実態、回遊時における移動の特性や移動時における交通安全上・防犯上の課題、そして、こういったお出かけを通じてどのような体験や経験が子どもたちの心に楽しかった思い出として残っているのかなどについて研究しています。

#### 2.2 地域公共交通の利用促進

福岡県下の自治体と連携して地域公共交通の利用促進に取り組んでいます。中でも、2015年にはその取り組みの一環として学生手作りのバスマップを作成し、地域へ配布しました。コミュニティバスに乗り込んだ利用者へのヒアリング調査にはじまり、学生目線での地域の資源に関する現地調査、地域住民や商業店舗へのインタビュー等を行っています。地域にはすでにバスの運行ルートや時刻表等が整理されたものがあつたこともあり、それとは異なる一風変わったバスマップを作ってみよう!となった結果、創意工夫に溢れたバスマップが完成しております。例えば、地域の特産物を扱った店を整理しその店をバスを乗り継いで巡ることで、地域を乗っても支え食べても支えることをテーマにしたバスマップや、おじいちゃん、おばあちゃんが孫とお出かけする一日を想定し、地域の公園や図書館の開館情報等とバスの運行情報を整理したバスマップなどができ上がっております。学生たちが作成したバスマップは実際に町長の前で披露し、その後は町関連施設に置かれています。



2016年度研究室メンバー



研究室で作成したバスマップ



アイマークレコーダーを装着しての歩きスマホ実験



ドライビングシミュレータでの運転実験

### 2.3 歩行環境、自転車走行環境整備に関する研究

歩きスマホが社会的な問題となっていますが、研究室でも歩きスマホの危険性を定量化するための研究を行っています。アイマークレコーダーや加速度センサーを装着した歩行実験を行っており、視野への影響や歩行者交通密度の高まりに伴う歩きスマホによる衝突リスクの変化について研究しています。

また、近年自転車の走行空間が車道を基本として整備が進められるようになったことを受けて、特に自転車専用通行帯のあり方について研究を進めています。自転車が自転車専用通行帯を走行するようになってドライバーの運転挙動にどのような影響が生じているのか、自転車専用通行帯の整備手法の違いによってドライバーからの視認性や景観的な評価にどのような差があるのかなどについて、ドライビングシミュレータによる運転実験を行っています。さらには自動車交通が自転車の走行挙動に及ぼす影響についても研究を進めており、自転車交通、自動車交通の両視点から安全な自転車専用通行帯の創出に向けた研究を進めています。

### 3. 数字で見る交通・都市システム研究室

最後に、研究室の特徴をさまざまなデータの平均値(直近3年)からご紹介します。

**4年生の配属人数：12.6人/年**

⇒私立大学とあって配属される学生が多く、多い年では14人の配属がありました。

**在籍した学生の男女比：男性7：女性3**

⇒学科全体での男女比がおおよそ9：1であることを考えると、当研究室は女性の多い研究室のようです。

**卒論テーマの分野：歩行者・自転車交通 22%、公共交通 16%、交通安全 14%、交通情報と交通規制 11%、交通行動分析 11%、都市交通計画 5%、その他 22%**

⇒3年間で37名の卒論生を輩出してきましたが、その研究テーマを交通工学研究発表会での原稿分類にならない整理した結果です。歩行者・自転車交通に関する研究が最も多く、それ以外にも交通に係る研究テーマに満遍なく取り組んでいます。また、この分類に当てはまらないようなチャレンジングなテーマにも取り組んでいます。

**研究室ミーティングの開催回数：21.3回/年**

⇒2～3週間に1度、全員集合してのミーティングを行い、研究の進捗状況を報告します。毎回のミーティングで議論した内容や決定事項に関する議事録を学生自身に作成させており、効率的なミーティングの進行に活かされるとともに、議事録を作成する訓練にもなっています。

**(おまけ) 研究室での飲み会の回数：3.0回/年**

⇒新歓コンパ、忘年会、追いコンが開催されます。何となくお酒に強そうなイメージのある九州ですが、飲み会の開催状況は他大学と大きくは変わらないのではないのでしょうか。

### 4. おわりに

九州随一の繁華街、天神から20～30分もあれば福岡大学に到着します。福岡にお越しの際には、どうぞお気軽に交通・都市システム研究室にお立ち寄りください。教員一同、お待ちしております。

(文責：吉城秀治)